

足立区地域公共交通会議 議事概要

日時	令和6年1月31日(水) 13時15分～13時55分
場所	足立区役所 南館12階 1205A会議室
事務局	足立区都市建設部交通対策課交通計画係
出席者	出席18名、欠席2名
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者	2人(随行者)
配布資料	<p>次第</p> <p>別紙1 足立区地域公共交通会議委員名簿</p> <p>別紙2 コミュニティバスはるかぜ路線の一部見直しについて</p> <p>参考資料1 令和4年度 各路線の利用者数と今後の予定</p> <p>参考資料2 コミュニティバス「はるかぜ」の路線再編(案)について</p> <p>参考資料3 コミュニティバス「はるかぜ」社会実験バス運行経路図</p> <p>足立区地域公共交通会議開催要綱</p>
議 事	<p>【協議事項】</p> <p>コミュニティバスはるかぜ路線の一部見直しについて</p> <p>【報告事項】</p> <p>ア コミュニティバスはるかぜ一部路線の「協働事業」実施について</p> <p>イ 「はるかぜ」車両等購入費補助金交付事業について</p> <p>ウ 足立区路線バス停留所環境整備費補助事業について</p> <p>エ 足タクの実証運行開始について</p> <p>【その他】</p>

次第2 (1) 協議事項

別紙2「コミュニティバスはるかぜ路線の一部見直しについて」P1～P6

参考資料1 令和4年度各路線の利用者数と今後の予定

参考資料2 コミュニティバス「はるかぜ」の路線再編(案)について

参考資料3 コミュニティバス「はるかぜ」社会実験バス運行経路図

について事務局から説明。

〈日立自動車交通株式会社〉

はるかぜ10号は、運行当初から利用者が少なく、企業努力で維持していた。昨今の運転士不足で路線維持は厳しい。収支の良い仕事を断り、運転士をはるかぜ10号の運行維持に回していたが弊社の体力も限界に近い。『乗客のいない空気を運ぶようなバスはモチベーションが下がり運転したくない。』と申し出る運転士も多く、勤務スケジュール調整に苦慮している。

新卒採用者も、乗客の多い路線は、乗客から『運転士さん、ありがとうね』の声を多くいただき、非常にやりがいを感じている様子だ。

しかし廃止予定の10号は、一日に数十人しか乗らない。運転士からも、『このような路線よりも、たくさん乗る路線に人員を回して収支を良くしてもらいたい』という意見が多く出た。そのため今回、10号の廃止に向け、協議をお願いしたい。

〈株式会社新日本観光自動車〉

はるかぜ11号の運行開始当初は北千住駅から椿循環の経路のみだったが、交通空白地域を埋めるため、足立区の要望を受け自主運行でも走らせることができると判断し、堀之内一丁目北から博慈会記念総合病院までの運行を開始した経緯がある。

コロナ前からもともと少ない本数をさらに減便したが、特に従来からこの区間は利用者が少なく、平均すると乗車は1便に0人～1人である。

乗務員も『モチベーションが上がらない。乗客が多い方がやりがいもある。』と言う。さらに昨年11月頃から乗務員の欠員が相次ぎ、この区間を廃止できないかと区や運輸局に相談してきたところである。改善基準告示が改正されることも鑑みて、11号の一部区間廃止について協議をお願いしたい。

〈足立区都市建設部長〉

減便や廃止が相次ぐなか、バス事業者とのヒアリングを経て、今回の会議で協議することに至った。区議会にも報告している。区民の声も『廃止しないで、減便しないで』のご意見を多くいただいたが、区も苦渋の決断として協議してほしい。

〈東京バス協会〉

この状況は、今年（令和6年）4月から、改善基準告示が改正されることが関係している。運転士の休憩時間が変更され、休憩時間が長くなったことで勤務時間が短くなった。乗務員がいないので、残業でのカバーもできない。東京バス協会が事業者採用関係費を交付しており、申請がどんどん増えている。コロナで体力も無期中、採用関係費をかけても採用できない。

バス運転士は大型2種免許を持っているが、大型2種免許取得者が、この10年で7~8割減。厳しい状況を脱せないバス業界の苦しい状況を理解してほしい。

その他の意見はなく、以下の協議事項について、出席委員の了承を得た。

- ・はるかぜ10号（西新井・高野線）
運行事業者：日立自動車交通株式会社
令和6年3月を以って廃止
- ・はるかぜ11号（堀之内・椿循環）
運行事業者：株式会社新日本観光自動車
令和6年3月を以って一部区間を廃止

次第2 (2)【報告事項】

別紙2 P7~

ア コミュニティバスはるかぜ一部路線の「協働事業」実施について

イ 「はるかぜ」車両等購入費補助金交付事業について

ウ 足立区路線バス停留所環境整備費補助事業について

エ 足タクの実証運行開始について

について事務局から説明。

〈国際興業株式会社〉

はるかぜ3号は、今まで説明いただいたように令和6年3月末で廃止する。昨日もTVで報道されたところである。今まで自主運行していた路線に対して、はるかぜの一部路線を、足立区が運行経費赤字分だけでなく補助するとの施策に異論は無い。

ただ区内には、はるかぜだけでなく一般の路線バスも運行しており、年間100

万人や200万人を運んでいる実績があり、かつ投入資源としても、はるかぜは2台を行き来させていたが、路線バスは20台～30台を投入している所もある。そのため、一便一便が苦しいというより全体的に苦しい状況である。

今回、新しくバス停環境整備費の支援制度を作っていただいたが、加えて私どもとしては、本来守るべき路線バスへの支援について、相談させていただくこともあると思う。

〈足立区都市建設部長〉

各事業者様が区内路線バスの維持にご尽力いただいていることは、充分承知している。区として何ができるかを、引き続きご相談させていただければと思う。

〈事務局〉

本日報告させていただいたコミュニティバス「はるかぜ」の協働事業は、今年4月に開始予定である。事業者様には引き続きご協力をお願いする。

社会情勢も大きく変化していることを鑑みて、これまで総合交通計画で各交通施策を進行管理してきたが、今年度から地域公共交通計画の策定に着手している。来年度早々に活性化協議会を発足するので、その中でご審議をいただきながら、来年度末の策定に向けて進める予定である。

以上